

土と左官の価値の高まりへ、今後の時間とお金を投じることに決めました。私事ではありますが、元手は当社で得た18年間の経験と、さわかみファンドで積み立てた資産です。金融市場の暴落や震災を経て出会った数万名の皆さま、そしてともに汗を流した数百名の仲間のおかげで“今”があります。本当にありがとうございました。

彼方より砲撃が響き、身近にウィルスが潜む今、長期投資で新たな挑戦をさせていただけることに感謝いたします。最後に、入社の原因とこれらについて少しお話しさせてください。

原点

子供の頃、自らの命を守るために大切な人の命を見捨てかねない体験をしました。私は弱く、身勝手でした。人を、自分を守るには“力”が必要だと思いました。溺れる人を救うには泳ぐ力、助けを求める力、励ます力、救いを求めるその手を最後まで離さない力です。

学生の時、アフリカや欧米を旅しました。小さな村で、裸足の母子にスープをご馳走になりました。お金では手に入らないやさしさに触れました。うるわしの都では、戦勝国による正義を頂点とした世界平和が掲げられていました。その“世界”に先の母子は含まれているのか？ 善悪や貧富に絶対はあるのか？ 教育やメディアの情報が作り出しているのではないのか？ 旅は先入観を崩し、新たな世界を見せてくれました。そして人が豊かに生きるには“自由”が必要だと教えてくれました。自分の心と頭で判断する思考の自由。健康や命を犠牲にすることなく、家族や身近な人たちと安心して暮らせる経済的自由です。

大切な人を大切にできる力、ありたい自分やありたい社会であるための自由。当社創業者の澤上が掲げる長期投資は、それらを手にするための財産

づくり、そして生き方に思えました。“長期投資で世の中をおもしろく。さわかみファンドを運用実績とお客さまからの信頼で世界一にしよう。”その理念と事業に人生をかけたいと思い、24歳の春に入社しました。

長期投資

戦争のたびに国境が書き換えられる欧州では、戦火や通貨の下落から富を守り、次世代に継承するためのプライベートバンクが古くから存在します。そこで運用経験を積んだ澤上が、富裕層に限られた本格的な長期運用を市井に直接届けようと立ち上げたのが“さわかみファンド”です。財布のお金を消費や貯蓄に回すだけでなく、ファンド購入によって1万円から暮らしを支える企業に投資をする。株主として企業の成長に参加し、資本市場を通じて世界経済の発展にアクセスする。年齢・職業・性別は問いません。長期投資は私たち生活者に開かれた未来の財産づくり、ひいては社会参加のチャンスです。

では、長期投資の価値の源泉とは何か？ 日々のお客さま対応や企業調査の現場で実感するのは、人と人、人と企業の繋がりで。

現場

“繋がり”を特に実感したのは、リーマンショック後です。お預かりした資産を半分に減らしてしまった方もいました。期待に応えられていないことが申し訳なかった。そして社会に欠かせず、将来の兆しを見込む企業であろうと悲観一色の市場で売られ続ける株価しか見せられないことが、悔しかった。運用は結果が全て。その結果に至る過程を磨き、ありのままに示していく。一人ひとりのお客さまと向き合い、しあわせづくりのお手伝いをさせていただくこと。全社員が必死でした。

市場が底をつき反転する頃、長くファンドを保有するお客さまと比べ、底値付近で購入したばかりの短期保有者のパフォーマンスの方が良い現象が生まれました。「長く持つほど信頼と実績が積み上がるファンドではないのか？」と声が寄せられました。おっしゃる通りでした。そこでお客さまに会いに行き、「目の前の運用状況は期待に応えられていない。そのうえで当社が何を目指し、何を行っているのかを伝え、ご判断いただこう。何より長く持ち続けてくださっている方のおかげで“今”があることの感謝を伝えよう」と長期保有者向け感謝会を全国で始めました。厳しい言葉もいただきました。同時に初めてお会いするお客さまばかりにもかかわらず、とても温かい雰囲気でした。お客さまをファンド仲間と呼ばせていただいておりますが、初めて“仲間”として迎えていただけたように思う瞬間でした。丁度その頃からアベノミクスが始まり、現在に至ります。

今は、さらに電話やセミナーに限らずファンド仲間の皆さまとの繋がりを大切にしています。

運用現場では、1999年より数々の下落局面を皆さまと乗り越える過程で、より広くグローバルに投資機会を捉え、より深く将来の企業価値を追求し、より遠くを見据えた運用戦略とチームづくりを行っています。今日のファンド仲間は株式市場を通じて日本・欧米6カ国・台湾・ケニアの企業活動に参加しています。理念は変えず、“投資基準”は見直しながら精度を高め、企業との対話を深めています。

是非これからもレポートや勉強会を通じ、さわかみの“人間”をご覧になってください。私たちはAIでもモノ売りでもありません。財産づくりのお手伝い、そして皆さまとともに長期投資でおもしろい世の中づくりを約束するものです。

これから

コロナ禍に限らず、金融資産や教育機会の差によって家庭の経済格差は広がっています。長期投資で力になれる機会は広がるばかりだと思えます。暮らしかから1万円をねん出し、投資することは決して容易ではありません。それでも長期投資を知り、企業の成長に参加する機会が一層必要とされるように思うのは、年金など社会保障制度の維持は困難であり、個人の自立がこれまで以上に社会から要請されるようになるからです。「日中は出版社、深夜は弁当屋の勤務をして必死で働いています。生活に余裕は決してありませんが、ここで投信をはじめようと決めました」豊かだから投資をするのではなく、豊かになるために投資をする時代だと、お客さまからのお手紙に気づかされました。この方のために働きたいと思いました。

では、どうすれば長期投資を広めていくことができるのか？

大切なお金と時間を、価値の高まりに投じるのが長期投資。各地の勉強会や中学・高校の授業でそう伝えてきました。お客さまの中には、子育てや家業を継ぐことがご自身にとって一番の長期投資とおっしゃる方もいま

た。私にとっては当社に投じた18年間とさわかみファンドの購入です。しかし、一番の価値の高まりには、まだ投じ切れていません。

土と左官の可能性です。

前職では、日本の左官を世界に広げたいと、屈指の親方のもとへ見習いに通いました。そして己の未熟さから、一年で飛び出しました。しかし、今も私の礎は当時親方から習ったことであり、左官の社会的価値は褪せるどころか、高まっています。

左官は土や藁、石灰と海藻ノリなど、身近な自然を用いて住まいや空間を生み出します。命を守るハード(素材)であり、住み手や作り手の想いを照らすソフト(設え)である左官。脱炭素やSDGsが掲げられる何百年も前から、人類が持続可能な暮らしの知恵、また美の結晶としてその技術を磨いてきました。特に日本では、四季と美意識、旦那と職人の粋、丹精込められた道具と技などによって“背景”として存在してきました。顔が映るほど磨かれた黒漆喰の前に立てば、佇まいが鈍色に浮かぶ。陽の角度で表情を変える土の空間に身をおけば、時と光の移ろいを身にまとう。スマホやメタバースに映えるデジタルな人や景色も素敵で

す。しかし、ありのままの人間の姿、生の営みが美しい。そのことを、何億年と堆積した土と光を背景に左官はリアルに表現します。人がより人らしく、大切なものをより大切に生きていくことを支える土と左官。その価値を、親方や職人の力をお借りして、今の人たちに喜んでいただけるカタチで提案していくこと。あの日飛び出してきた左官の親方とともに、もう一度チャレンジさせていただくことが、私にとってこれからの長期投資です。

長期投資で世の中をおもしろく。

“力”と“自由”をもたらす長期投資には、一人ひとりの希望が込められています。

希望が集うさわかみ投信でいただいたご縁に感謝し、再びお会いできる日を願っています。

希望の実現に痛みが伴おうと、私たちは一人ではありません。

ともに汗を流し、ともに笑顔で、ともに未来を。くれぐれもご自愛ください。

パワーあふれる投信会社勉強会のお知らせ

情報システム部 江藤香織

今回退職を決めた佐藤と私は16年のつきあいになります。思い起こすと、当社はこれまで多くの社員が入社し巣立っていきましたが、その中でも私にとって佐藤は特別な存在です。

忘れもしない入社初めての月次レポート発送作業日。ファンド歴の長い方はご存じのとおり、本紙面は全社員で専用機械を使って三つ折りにし、封筒に入れて封を締め郵便局に持ち込んでいるのですが、当時当社には作業方法を優しく手取り足取り教えてくれる文化はありませんでした。何をどのように動いたらいいかオロオロしていた私に、「ちゃんとやってくださいよ!」と怒鳴り声を上げたのが佐藤でした(その後一人公園で泣きました)。またあるとき2人でセミナーに登壇したときは、私が先に質問に答えると「今、江藤が話したことは全て忘れてください」と目の前でバツサリ切られたこともありました。一方、ご縁の窓口時代には、早口のお客さまとの会話のスピードについていけず、

お客さまから電話越しに「バカ!」と言われた私に、15分休憩を促し、その間にお客さまに折り返し電話してお詫びと「部員に二度とバカと言わないでください」と言い返してくれたのも佐藤でした。つまり、佐藤はいつもファンド仲間にも社員にも本気でした。

佐藤をはじめ当社は退職後に起業する社員が多いのですが、それは本業で長期投資にどっぷり触れていく中で社会を主体的によくしたいという思いが強まるからだと感じています。なので、社員の退職は関係性の終わりではなく長期投資の輪が広がるということ。佐藤の新たな挑戦によってまた1つ新しい道が広がることに、私は嬉しい気持ちでいっぱいです。現在4~5月に佐藤と最後の勉強会を企画中です。詳細は後日4月の長期投資だよりおよびHPにて公開いたしますので、ご都合のつく方は是非ご参加ください。